

MAD

School of Contemporary Art



Organized by Arts Initiative Tokyo
Twin Bldg. A-502, 30-3, Sarugaku-cho
Shibuya-ku, Tokyo 150-0033 Japan
<http://www.a-i-t.net>

Making Art Different

MADは 現代アートの 学校です。

コース・ディレクター

小澤慶介
AIT

ロジャー・マクドナルド
AIT

講師(敬称略・50音順)

石田尚志
美術家/映像作家/多摩美術大学 講師

逢坂恵理子
横浜美術館 館長

北川フラム
アートフロントギャラリー 主宰
地中美術館 総合ディレクター/新潟市美術館 館長

窪田研二
フリーランス・キュレーター

小泉明郎
美術家

塩見有子
AIT

辛美沙
Misa Shin & Co. 代表
アートフェア東京 エグゼクティブ・ディレクター

住友文彦
AIT

建畠哲
国立国際美術館 館長

崔敬華
フリーランス・キュレーター

塚本由晴
アリエ・ワン/建築家

辻憲行
東京都写真美術館 学芸員/翻訳家

中村政人
美術家

南條史生
森美術館 館長

帆立亜紀
アートコーディネーター

保坂健二郎
東京国立近代美術館 研究員

堀内奈穂子
AIT

毛利嘉孝
東京藝術大学 准教授

森弘治
美術家

柳下朋子
日本経済新聞社

山川冬樹
美術家

山本裕子
山本現代 代表

吉本光宏
ニッセイ基礎研究所

Curatorial Studies

Definitions of the Curatorial
Twentieth Century Art History
through Exhibition History
Curatorial Practices from the 1960s
Curatorial Practices from the 1990s
Knowledge Production and Exhibitions
Reading and Understanding Social Space
Out There: Experimental Curatorial Practices
New Institutionalism, New Approaches
Communities, Rural Regions and Art
The Arena of International Exhibitions
Archives and Curatorial Practice

Art + Communication

Modernism and the Expansion of Sculpture
Histories of Photography
Painting through the Twentieth Century
Painting the Contemporary
Film, Video, Moving Image
Installation Art and Performance
When Participation Becomes Art
Moving Image and Animation Now
Public, Art and Public-ness.
The Archival Impulse
Mapping Art Worlds
Japanese Cultural Policy and Art
Art Markets, Creative Industries
Neo-Liberalism and the Fate of Museums
The Multiplying Role of
International Exhibitions

Artist

Magazine

Free Blocks

Workshops

Bodies in Communication
Let's Make an Art Zine
Critical Art Writing
Reading Urban Space

Art & Theory

Art as Trickster: Jean Fisher
Beauty and the Sublime
Dissecting Venice
The Grammar of Social Space
The Politics of Aesthetics
The Possibility/Impossibility of
Creating Community
Gazing at Japan:
Bruno Taut and Anjo Sakaguchi.

The Art Industry

Fundamental Structures in the Art World
The Power of Communities and
the Future of Art
Studying Curating Abroad
Art That Comes From Alternative Spaces
Cultural Policy and the Changing Nature
of National Museums
Managing Art, Project-Making
Working in a Commercial Gallery and
the Global Art Market
International Cooperation:
Personal and Knowledge Networks
Creating Artist in Residences

Art and New World Orders

Representations of Memory and
Visual Culture

Neo-Liberalism and the Trace of Art
The Matrix of Biennales
Post-colonialism and
Questions of Representation
The Creole and The Formless

Art Through the City

Re-thinking Architecture
from the Living Body
Artist, Unconscious and The Modern City
The Situationist City: Drift,
Detourn, Diversion
The Body in a Network Situation
Conceptual Art in the 1960s
The History Game: Notions of the Public
in the Age of Creative Cities

Art and Gender

ACT-UP! Dynamics of Representation
Gender, Space and the Political
Feminism and Art in the 1970s
The Body in Video

Art and The Transcendental

The Loss of the Religious Image
from Romanticism to Early Abstraction
Influences and Ideas from Beyond Europe
Another Story of Abstract Modern Art:
Robert Rosenblum's Thesis
Mark Tobey and Japan: Zen Shocks and
Abstract Painting
Towards Non-Knowledge

見るから考える、そして自分のものにする。現代アートの奥深さにもっと近づこう。

癒しか、警鐘か、快楽か、消尽か、撤退か、抵抗か。4つの基本コースと専門性の高い42のフリー・ブロック(選択講座)が、刻々と変化する複雑多様な「世界」とそのなかの「私たち」の関係や距離感を、少しずつ解き明かします。

MAD (Making Art Different = アートを変えよう、違った角度で見てみよう)は、NPO法人AIT(エイト)が2001年に開講した現代アートの教育プログラムです。キュレーターやギャラリスト、アーティストなどの専門家を迎え、グローバル化した社会においてさまざまに生み出される現代アートの作品やプロジェクト、展覧会、現象、議論などを、美術史はもとより、哲学思想や社会学など現代のアートに関連する学問領域を参照しながら、より多角的に、深く、体系的に捉えて考察します。

初めて現代アートに触れる人から専門的に学びたい人まで、さまざまな知的好奇心に応えるプログラムです。受講生は、各コースの必修レクチャーのほかに、フリー・ブロックとよばれる選択講座から指定された数の講座を受講することができます。レクチャーは、すべてAITルーム(代官山)で行われます。

NEW! キュラトリアル・スタディーズ “現代アートの発信力をつける!”

キュレーション(展覧会の企画・制作)を理論と実践から総合的に学びます。キュレーションの歴史や現代性を、さまざまな学問領域を横断しながら考察し、今日におけるキュレーションの可能性を追究します。

キュレーションの実践や特定のテーマの調査を希望する人は、コース内の助成金制度に申請し、資金調達を行うことができます。コンセプトや形式の設定からアーティストの選択、予算組みまでの必要不可欠な実務や、人的・知的ネットワークの形成を経て、現代アートへのより深い理解が可能になります。知識をつけながらアーティストや仲間と一緒に何かやってみたい、今後海外でキュレーションを学びたいと考えている方を対象にしたコースです。

2010年4月開講/12ヶ月コース/定員25人/¥212,100(税・諸費用込)

※アート+コミュニケーションを同時に受講の方は割引料金が適用されます。詳細は、パンフレットかAITのホームページをご覧ください。

アート+コミュニケーション “現代アートの基礎を3つのテーマで学ぶ”

前期「20世紀の美術史 編」、中期「1990年代から2000年代の美術理論 編」、後期「アート界の仕組 編」の3部で構成されます。前・中期では現代アートの基礎を理解し、後期ではそれと実社会のつながりを明らかにします。

前期は、絵画や写真、ビデオなどの表現形式別に20世紀の美術史の基礎知識を身につけます。中期は、1990年代以降のグローバル化とともに多様化・複雑化してきた表現を、関係性の美学や公共性などをテーマに読み解きます。後期は、構造や市場、文化政策などをテーマに、今日のアート界を描き出します。専門的な用語や考え方を少しずつ理解しながら、自分の言葉で現代アートを人々へ伝えてゆきたいと考えている方を対象としています。

前期、中期、後期のいずれか1つのみ、あるいは2つ合わせて、さらに通年で受講が可能です。

前期は2010年4月、中期は9月、後期は2011年1月開講/前・中期4ヶ月コース、後期3ヶ月コース/定員各20人/各期¥75,600(税・諸費用込)

※アート+コミュニケーションを一度に2期以上お申し込みの方は、受講料が割引になります。詳細は、パンフレットかAITのホームページをご覧ください。

※受講できるレクチャー数は、前・中・後期で変わりません。

アーティスト “アーティストになるための考え方を鍛える”

表現形式に対する批判的理解や、作品を発表する場(社会)に対して呼びかけをする上で重要となる言語や思考方法を身につけながら、自身の作品と社会とをつなぐ可能性について、キュレーターやアーティストを交えて議論します。アーティストとして、自立した活動の実現を目指す方を対象としています。

2010年4月・9月・2011年1月開講/各3ヶ月コース/定員各12人/¥38,850(税・諸費用込)

マガジン “世界のアートシーンを自分のものにする”

コース・ディレクターが海外のアート雑誌やウェブの英文記事を読み、受講生たちと議論することで、世界各地で展開する現代アートと同時に国内のアートシーンも読み解きます。市場の動向や、多義化する現代アートと社会の関係性など、国内ではなかなか触れることのできないアートの一面に迫ります。

2010年4月・9月・2011年1月開講/各3ヶ月コース/定員各12人/¥36,750(税・諸費用込)

集中講座

現代アートをより深く理解するため、「現代」を、アートに深く関係するさまざまな学問領域である芸術理論、建築、アジアの近代、現代思想、写真、ジェンダーから専門的に読み解く6つの集中講座を開講します。(フリー・ブロックの受講は不可。)

E-MAD NEW!

2010年5月にオンラインのMADが新しく開講します。コースは、20世紀におけるアートの進化を1900年から1年ずつ丁寧に紐解いてゆく「1900年以降のアートの歩み」と、世界のアートシーンから注目の話題をお届けする「現代アートの最前線」の2コースです。詳細は、AITのホームページをご覧ください。

MAD2010 無料説明会「MADオープンデー」

各コースの概要説明後、質問を受け付けます。クラス見学会は行っておりませんので、この機会をご利用ください。

開催日時:2010年1月29日(金)19:00-20:30/2010年2月19日(金)19:00-20:30/2010年3月5日(金)19:00-20:30 左記以降の日程につきましては、AITのホームページをご覧ください。

MAD2010 資料請求・お問い合わせ/「MADオープンデー」のお申し込み

件名を「MAD2010資料請求」あるいは「MADオープンデー参加希望」とし、住所、氏名、電話番号、関心のあるコース名を明記したメールを、office@a-i-t.netまでお送りください。資料をご請求の方には、プログラムの詳細を記載したリーフレットとお申し込み用紙をお送りします。www.a-i-t.netでも詳細がご確認いただけます。

NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト]とは?—AITはキュレーターやアート・オーガナイザー6名が、現代アートと視覚文化を考えるための場作りを目的として、2002年に設立したNPO団体です。個人や企業、財団あるいは行政と連携しながら、現代アートの複雑さや多様さ、驚きや楽しみを伝え、それらの背景にある文化について話し合う場をさまざまなプログラムをとおして創り出しています。